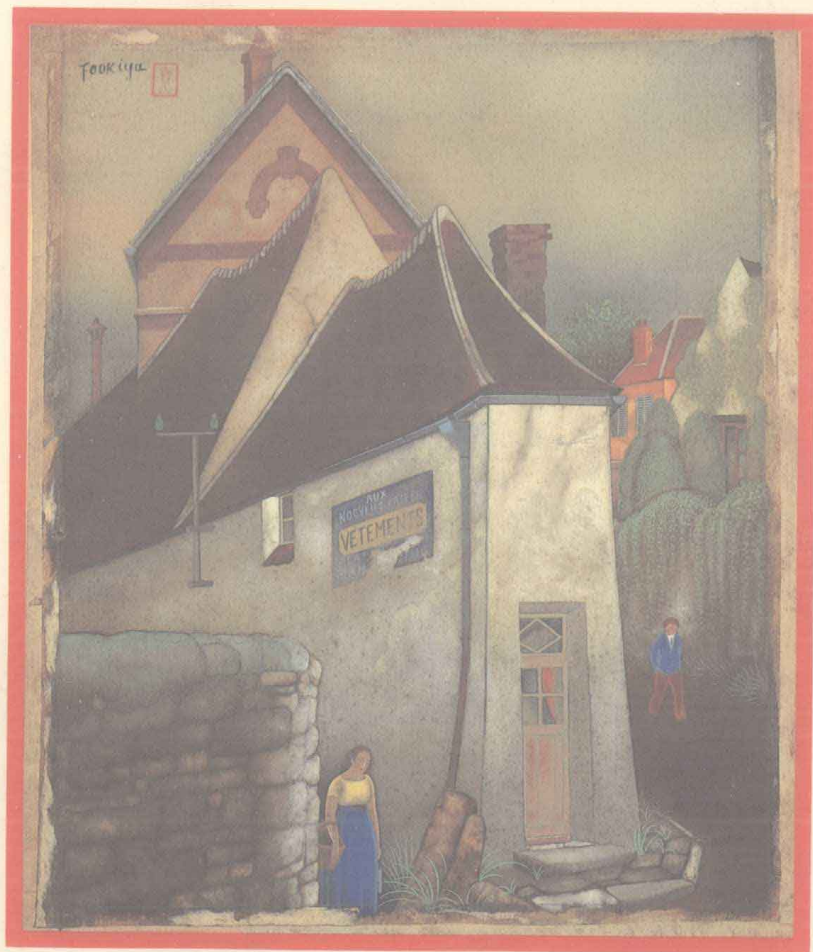


落谷虹児の世界

ベトエイユの風景

落谷龍生編



彌生書房

落谷虹児の世界
ベトエイユの風景

落谷龍生編



彌生書房

© 1992

藤谷虹児の世界 ベトエイユの風景

1992年 3月30日 初版印刷

1992年 4月10日 初版発行

著 者 ふき 路 谷 虹 児

編 者 藤 谷 龍 生

発 行 者 津 曲 篤 子

発 行 所 株式会社 彌 生 書 房

162 東京都新宿区中町18 電話・東京(3260)3707(代表)

印刷・太極印刷工業(株) 製本・大口製本印刷(株)

定価はカバーに表示してあります
落丁・乱丁本はお取替え致します
ISBN4-8415-0656-X C0071

落谷虹児の世界 ベトエイユの風景 目次

処女詩画集△銀の吹雪▽より 大正十一年十一月

5

流れ星——星夜の曲——野ばら——旅人の父子

詩画集△孤り星▽より 大正十二年二月

11

序詩——落陽——小人魚のなげき——巡礼子——玉乗小僧
——ひとりごと——幸福と不幸

詩画集△二ツの幻影▽より 大正十二年四月

25

涙橋——笹舟船頭——舞妓寒むかる

虹児画譜Ⅰ△睡蓮の夢▽より 大正十三年一月

31

睡蓮の夢——魚骨葬礼——なやみ——なぐさめ——忍びの

姿——幻影を描く

虹児画譜Ⅱ／＼悲しき微笑／＼より 大正十三年四月

悲しき微笑——風の旅人——タンポリンの唄——可愛ゆい
時計——想ひ出

虹児画譜Ⅱ／＼銀砂の汀／＼より 大正十三年九月

もしも逢へずに——追想——人の世の淵

詩画集／＼雪の真珠／＼より 大正十四年二月

ロスケパン——泣きぼくろ——宿場——モデル

詩画集／＼私の詩画集／＼より 大正十四年九月

別れ四題 その1、別れのテープ その2、かたみの扇
その3、異郷にて その4、故国にて——あき鐘

詩画集以外から——パリ時代—— 大正十四年～昭和四年

巴里の散歩——金髪——巴里小景 朝 *Matin* 昼 *Journée*
夜 *Nuit*——巴里の雀——異郷の落魄

詩画集△花嫁人形▽より 昭和十年十月

花嫁人形——遠めがね——かつばの子——駅通の兄妹——
乙女椿——ふくら雀——描き帯——笠もの狂ひ——夏の虫
——ちちははの掌——夜更けに聴く靴の音——死んだカナ
リア——巴里の渡り鳥

晩年の作 昭和四十七年～昭和五十四年

春の海——遺稿 詩・無題

魯迅編集△落谷虹児画選▽ 昭和四年 上海合記教育用品社発行

小引（落谷虹児画選）小序）

△睡蓮の夢▽より

萌芽（萌芽）——旅の兄人（旅人）——月光波（月光波）

——アカシヤの別れ（金合歡樹之別）——お人形のマント

（傀儡子的外套）——幻影船（幻影船）

△悲しき微笑▽より

宵星（宵星）——春（春天）——温室の窓（温室的窗）——

童（紫花地丁）——野に病む小鳥（病在野間的小鳥）

△私の画集▽より

吹雪に追はれて（爲雪風所推送）

絵と詩は眼鏡の二つ玉

落谷龍生

年譜

処女詩画集〈銀の吹雪〉より

大正十二年十一月

流れ星

星 星

流れ星

どこへ 行つた

ながれ

流れ星

どこへ 行つた

ほかの星

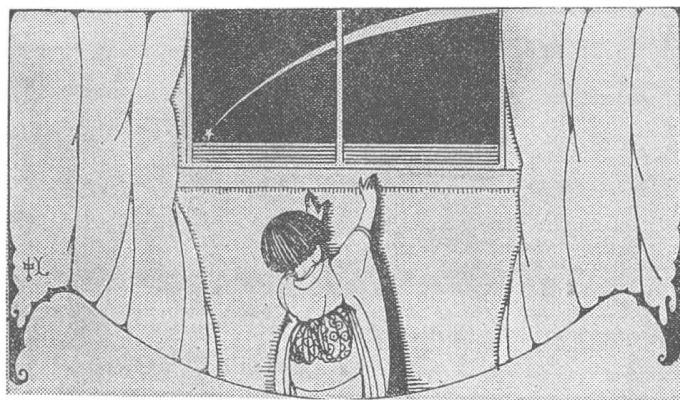
みんな

泣き出した

夜露の

なみだが

光つてた



星夜の曲

かゝる夕べには
エジプトの姫達
頗黎^{はり}の離宮の
水辺^{すゐべん}に遊び
白鳥とさゝやき
月に踊り
星をうたふと
我れは聞きたり

今宵は我れ
エジプトの姫よ
星と歌はん
エジプトの姫よ
聞きしや我が
ギタルラの調べを
月に返^かえ行く
エジプトの歌を



野ばら

野道で あつた

旅の人

私に 野ばらを
くれてつた

野ばらは

ほのかに

あかつた

見知らぬ人は

わたくしの

胸に 野ばらを

さしてつた

そしてその人

旅人は

私の髪を

なでながら

私の目の奥

ちつと見て

淋しい声で

言ふてつた

『野ばらの花は

美しい

あなたは花に

きをとられ

小枝のとげに

気がつかぬ

私もあるとき

美しい

花に迷ふて

気のつかぬ

とげに

傷つき

泣きました

それから

私は

旅に出て

旅の絵かきに
なりました』

旅の絵かきは
泣いてつた



旅人の父子

ひらの
曠野に

夕日が

沈むとき

わが子に

泣かれて

旅人は

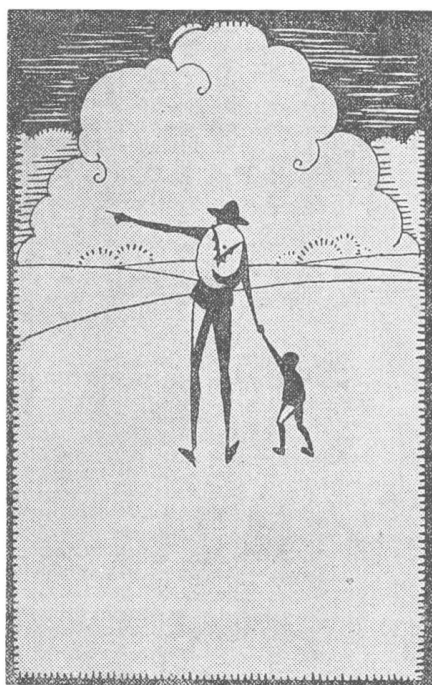
はるかの部落を

指さして

だまつて

こどもを

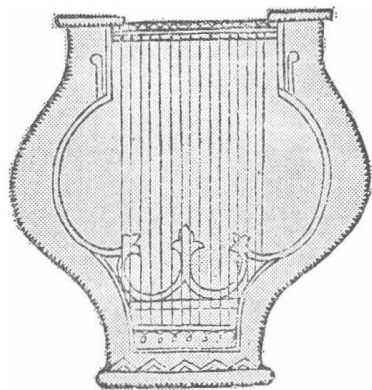
だきました



詩画集〈孤り星〉より

大正十二年二月

序
詩



吐息は水色

涙は紫

そして悲しみは青緑

微笑は黄色

笑は赤

そして喜びは桃黄色

そして怒りは

メチャメチャの

色真黒まざりの混合色

落陽

あたり

しづまりて

舟ひとつなく

海

いちめんの

いり日かな

いり日かな

いり日かな

海

いちめんの

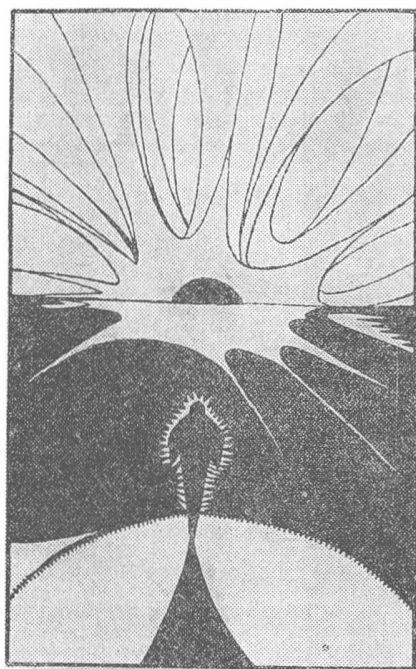
いり日かな

礼拝の

漁夫

そのまゝに

いり日かな



小人魚のなげき

